

会 議 名	令和7年度板橋区立郷土資料館運営協議会
開催日時	令和8年2月25日(水) 10時～11時30分
開催場所	郷土資料館講義室
出席者	18名
	運営協議会委員 学識経験者委員 5名 (9名) 住民代表委員 2名 学校教育関係者委員 2名
	区 職 員 金子地域教育力担当部長 (9名) 池田生涯学習課長 齋藤郷土資料館長 吉田文化財係長 増田学芸員 四戸学芸員 細縦学芸員 上甲学芸員 中村学芸員
会議の公開	公開
傍聴者数	0人
議 題	郷土資料館事業報告
	① 令和6年度 事業報告
	② 令和7年度 事業経過報告
	③ 令和8年度・9年度 事業計画説明
資 料	令和7年度板橋区立郷土資料館運営協議会資料
所 管 課	教育委員会事務局生涯学習課 郷土資料館 03(5998)0081

【開会】 開会挨拶、委員紹介、事務局職員紹介
【地域教育力担当部長挨拶】
【会長、副会長の選任】

【議題】

【郷土資料館事業報告①令和6年度事業結果報告、②令和7年度事業経過報告】
郷土資料館長から資料に基づき報告

【質疑】

○会長（森田委員）

議題1から2まで一括してご説明をいただきました。

これまでの説明につきまして、これから委員の皆様にご質問やご意見をお願いしたいと思います。なお、あらかじめ別府委員の方から幾つかご意見をまとめたメモが提出されています。全体に関わるものと、展示内容に関わるものです。重要なお指摘ですが、一括して取り扱うのではなく、関連するところから適宜取り上げて参ります。まず、史跡公園と板橋宿展と高島秋帆展の3点について、コメントをお願いします。

○住民代表委員（別府委員）

はい。まず質疑応答の前に、先ほど金子（部長）さんからお話がありましたが、郷土資料館をより充実させていきたいと思っておりますが、板橋区では「かけ橋」ということをキャッチフレーズに色々進めていく、というような記者会見をやっておりますので、その意味で郷土資料館は“過去と現在を結ぶかけ橋だ”とそういう認識であると思っております。（その意味で）やはり将来のことを考えるには過去のことを反省していかないと、次が良くなっていかないとしますので、多少厳しい意見ですが展示について私の感想を述べさせていただきます。

4月に史跡公園の展示がありましたが、私は20年ぐらい展示を見てきていますがその中でも最悪の展示だったと、非常に厳しい評価ですけどもそう思っております。実はこれは過去に中央図書館で展示されたパネルをそのまま持ってきて使ったということで、ショーウィンドウが空っぽだったり、パネルの解説が床面まで書かれているなど、そんなの絶対に読めないよというようなパネルを展示したりしていたので、これは観覧者にとって悪い印象を与えてしまったんじゃないかなと、そう思っております。非常に手間がかからなかったとか経費がかからなかったという点ではいいかもしれませんが、観覧者にとってはあまりよくなかったんじゃないかなと、そんなふうに感じました。

また10月からは板橋宿の紹介をしておりました。道中合羽なども用意して、宿場の写真パネルを背景に写真取れるようにしたというのは、一応そこで体験もできたということで、良かったのではないかと思っております。ただ、山本一力さんという作家が「ひむろ飛脚」という本を書いておられて、江戸時代に金沢藩が雪を固めて氷にしたものを、夏になると將軍様に届けていたという行事をずっとやっていたというわけです。その中に板橋平尾宿の名主の豊田家の話も出てきたりして、非常に板橋と関連してるわけです。しかも今の時代に將軍様はいないんですが、実は金沢藩・金沢市の湯涌温泉という所で氷を作り、それが夏に板橋区に届けられているということはあまりご存じないかと思っておりますが、そういう行事が今も板橋区との間で続いているということで、そんなことも紹介できればよかったのではないかと

と、そんなふうに感じました。

高島秋帆の展示では、各地の博物館に所蔵されている資料が展示されておりまして良かったと思いますし、ゲバール銃も手に取って感じるようにできていたので、そういった所は非常に良かったと思っております。それと今回は各展示のキャプションが（従来と）少し変わっていて、表題があってその下に説明があるというのは非常にわかりやすいものになっていて良かったのではないかと感じております。

ただ、ここの郷土資料館はデジタル化が遅れておりまして、例えば成増小学校の展覧会では QR コードを使って案内ができるというような、すばらしいことやってるわけですが、ここはいまだにそれがなされてなくて、例えば古文書なんか QR コードで読めば音声で中身を紹介してくれるとか、そんな工夫もやれば出来たんじゃないかなというふうに、感じております。

先日京都の万福寺へ行ってきましたが、お寺の表示案内の中でも QR コードを使ってやっているという時代なので、ぜひ郷土資料館のほうでも使ってもらえたらいいかなと思っております。板橋区は歩学(あるがく)なんていうものを作ってありまして、そちらのほうは QR コードを使って板橋区の案内しておりますから、ここでもできないことはないのではないかと感じております。

ただ、成増小学校の展覧会で QR コードを使ってございましたけども、若干本末転倒という部分もあって、QR コードを使うために QR コードを使っていたような感じで、各学年が作った展示の工夫箇所とか、ここが大変だったなどを、その各学年の学芸員さんが言葉で説明をしてくれるのですけれども、本来なら観覧に来た人全員に知らせたほうが良くて、そうするとスマホで聞けるだけじゃなく、展示で出して、さらに詳しいことをスマホで聞けるような形にするとよかったんじゃないかなという、成増小学校の場合の反省なんですけども。

郷土資料館でも、そういったものを利用していただけたらいいなということで、よろしく願いいたします。

○会長（森田委員）

ありがとうございます。過去と現在の懸け橋で色々と学ぶという重要な指摘をしていただきました。

私もかつて学芸員だったものですから、展示をやってみると、色々と配慮したつもりが全然難しくわからない等々言われたものでして、展示というのは“これが絶対だ”というような、100%色々な方を満足させるということは有り得ないことで、ある人には好評でも別の人には不評ということはよくあることでございます。今回の別府委員のご指摘を受けて、どのように考えるのか、この点を担当学芸員の方にお答えいただくと、これはもうゼミの発表みたいになりますから、そのようなことはなさらなくてもけっこうです。ただそのようなご意見が出ているということを受け止めていただきたい。展覧会自体は決して失敗ではありません。私はいい展覧会だったと思っておりますけれども、ただ少しこういった点に気がつけたほうがいいよ、ということをお願いしたいということで今後に活かしてください。

私は石川県の金沢の出身ですので、氷室の話聞いて、そういうのをやってくれと確かにいいなと思った次第でございます。10月の板橋宿展で別府委員からお話があった、この資料が抜けているとかそういったようなご指摘については、この展覧会が一体何を狙っている所なのかという、そういった趣旨をはっきりさせた上で、だからこういうコンセプトのものを選びましたっていうのが説明できていればよろしいかと存じます。ただ、当てにしていたものが展示されていなかったの

がっかりしたとかそういうのもあると思いますので、その辺のところは随時フォローしていくことが必要なのかなという気がいたします。

その他にも何か事業計画のところでは気が付かれた点とかございますか？展示以外のことでも結構でございますので、色々意見を出していただきたいと思います。

○学識経験者委員（小倉委員）

私昨年度はこの席（運営協議会）を全て欠席してしまってあまり貢献出来なかったと思っているのですけれども、今年度は企画展を二本拝見して、それから公園のほうも歩いたりして見てきたつもりではあります。

企画展で、区民が生きた戦争の時代、これは本当に実名で戦没者の方が登場して、本当にその物語というか、情感に迫ってくるような展示で、とても良かったなと感じています。これは戦後80年という催しが各地で行われていましたけれども、“区のレベルでここまでやるんだ”というのが伝わってきた展示だったと考えております。

それから4番(資料P11)の収蔵品展のほうは資料がいいのでとても驚きました。これは感想として館の皆さんに少しお伝えしたのですけれども、中山道板橋宿を表す資料として積極的に収集しているなということを感じて、それが展示によく生かされているということは感じました。

ただ苦言ですけれども、資料が小さいんです。ですからビジュアルにこれを表現しようとしたときには、何らかの形で拡大しなきゃいけないんですね。（観覧者に）訴求力を高めるためにはなんらかの仕掛けを作って、それはQRコードでも構わないですし、拡大写真でもいいかもしれませんけれども、強調したいところをもっと大きく切り出せばよかったのかなと思います。だから、生の資料を見れるということは完全にアドバンテージですが、そこからさらに学芸員の“見せ所はここなんだ”というところを強調して見せていただくと、もっと良かったなという印象を持ちました。

それから今日拝見した高島秋帆展につきましては、やはり現物の資料の迫力というものに驚かされますし、実際に火縄銃を持って構いませんよと言われたものですから持たせていただいて、これは（銃身の）バランスが大事なんだなということを実感できたという点では、非常によかったです。

それから上田の博物館、長崎の資料館など様々な館と連携しているところが非常に好感を持ちましたし、板橋の資料だけでなく、多くを扱ってらっしゃるところが良かったです。そういう感想を持ちました。

○会長（森田委員）

はい、ありがとうございます。また展示について、踏み込んだお話がございましたが、鈴木先生はいかがでしょう。

○学識経験者委員（鈴木委員）

はい。歴史展示の中で、やはり古文書の見せ方というのはどの博物館も非常に苦労していると事だと思えます。古文書の展示を見て、「ああなるほどな」と思って帰っていく方はおそらく一部の方だけだと思います。「これが当時の資料か」との感想でそのまま帰られてしまう。あるいは子どもたちではほとんどの場合「何これ？」で終わってしまいます。けれども、博物館ではどこでも大抵歴史の展示をやるとう古文書が出てきます。そこをどうやって小学生に理解してもらうのかは非常に

大変だと思いますが、少なくとも10代20代の若い世代、あるいは30代40代でも、これ何が書かれてるんだらうということ、具体的に説明できるような、または理解してもらえそうな何か工夫が必要ではないでしょうか。

20年前30年前は（展示物を）そのまま出して、キャプションもタイトルだけなどでした。それではなかなか理解してもらえないし、館に対する信頼度というか親近感というようなものが離れてしまって、美術館とか、科学館のほうに子供たちはつつい行ってしまふ。そこで、何か博物館学芸員としての（小倉委員が）先ほどおっしゃったような、力の見せどころ、工夫のしどころみたいなところを1つ捻っていただけるといいかなと思っております。（例えば）吹き出しでもいいので、この資料はこういうことが書かれてるんだよとか、文字や具体的なお金の金額といったキーワードになるようなものを示してあげるなど、色々な工夫をしてるところが多いと思いますし、4コマ漫画を出してるところもありました。

非常に難しいかもしれませんが、逆にやりがいに繋がっていただければいいかなと思っておりますので、この辺を区の博物館、郷土資料館として区民にわかりやすく説明できる、見ていただくための工夫をぜひやっていただきたいなと思っております。

あと1つ、先ほどの氷の話もありましたが、つつい博物館の学芸員というのは目の前の仕事に没頭してしまうわけですね。けれども、区民の中にはそういう（学芸員の見逃している）情報を持つての方がいらっしゃる。やはり日頃から区民との交流とかがあると情報が入ってくると思うんですね。だから友の会とか、保存会の方とか、日頃の交流の中で「こういうのを今度展示しようと思ってるんだけど」って言ったら、先ほどのような話で、今（こんな展示を）やっているよ？みたいな情報も入ってくる可能性があると思うので、ぜひそういった区民との接し方というか、交流の機会をぜひ持っていただけるといいかなと思っております。

○会長（森田委員）

はい、貴重なご意見ありがとうございました。今鈴木先生の方からお話がありましたが、古文書の展示というのは本当にみんなが苦勞している一番難しいところです。丁寧な説明をして、キャプションを丁寧に、解説も丁寧に、報告したものを載せて。それで見てくれるかということそうでもない。先ほどもお話がありました見出しとか、引きつけるようなものとか色々な形で工夫が必要とされます。

私もそうでしたが、展示内容の改善と言っても、県立博物館とか大きなところだと組織として中々やりにくい。区や市町村の地域博物館では、展示手法につきまして、自由に実験ができるのではないかなと思うんです。ですから色々試していただきたい。多少失敗しても学芸員の皆さんのスキルが磨かれるのではと思います。

他にどうでしょうか。話は展示に集中していますが、何か気づかれた点があれば。あるいは、事務局の方から今までの意見に対しての感想でも結構です。

○生涯学習課長

はい、別府委員からご意見がありました「点と点と展」の史跡関係の展示で、私も就任して直ぐでしたが見に参りまして、全く同じ指摘をさせていただきました。

ただ別府委員もご存知の通り、会場が元々図書館でやっていたもので、天井が高くて下に下駄をはかせていたので高さのある展示だったのが、資料館では入らなかったのが外した結果あのようになってしまったと。なのでもう少し現場の確認等が必要だったのかなと。（結果として）見えづらい展示だったということで申し訳ないですが、次回は是非ともその辺の反省を生かして学芸員も展示を進めて参ります

ので、よろしくお願ひできればと思います。

○会長（森田委員）

学芸員の皆さんは多忙ですから、業務については皆で助け合ってそういったフォローはしあっただきたいと思ひます。展覧会が終わると、振り返りを行うと「あと少しやっっておけばよかつたね」っていうことになるんですけども、そこは皆さんでフォローしあってください。展示は学芸員が中心になっただけですけども、時には生涯学習課文化財係の皆さんもフォローしてやっただけたらと思ひます。それでは、他にもいろいろとお話もあると思ひますけども、この後の議題がございませうので。

続きまして議題③の令和8年度・9年度の事業計画ですな。これについて、事務局からご説明をお願ひします。

【議題】

【③令和8年度事業計画説明】

郷土資料館長から資料に基づき報告

各展示企画案について各担当の学芸員から説明

【質疑】

○会長（森田委員）

はい、ただいま令和8年度の事業計画をご説明いただきました。それではこれまでの説明につきまして、委員の皆様からご質問、ご意見をお願ひしたいと思ひます。まだ発言されておられない方がいらっしやいますので、積極的にご発言をお願ひしたいと思ひますが、どうでしょうか。

○副会長（中野委員）

はい。実は昨年度の報告時でも良かったのですが、事業計画にも関係していると思ひますので、ここで少し思つたことをお話させていただきます。

昨年何度か展示を見せていただいて、すごく印象に残つたのは子どもの戦時中の絵日記だったんです。「区民が生きた戦争の時代」の時だったと思ひますが、当時生きていた人の息づかいが分かるというか、他の展示のなかにあっ、本当に子どもの暮らしがよくわかる展示だったんです。それが印象に残っ、それに関連して、そのあと美術館で戦時中の子どもの絵日記を見る機会がありました。ここ（資料館）をひとつの点とすると美術館もひとつの点となっ、連動させると点と点は繋がっ、一体化されていくんだと思ひます。

実は美術館に直接行つたのではなく、その前に中央図書館でまったく関係ない（少し戦争に絡んでいた）絵本の編集者の講演会があつたんですな。それを聞きに行つたときに、最後に美術館の方がいらっして、「実は美術館でも子どもの絵日記などを今たくさん展示していますからどうぞ」というアナウンスがあつたんです。それで私も見たいと思っ美術館に行つたんです。なので一見関係なさそうな「（戦時中の）子ども」というテーマで繋がっ、前面には出していませんけれども、子どもが描いたものを中心にして見ていくという視点もある、と思ひました。見る側からの視点ですが、繋げて見ていくと、より当時のことがリアリティを持っ分かるということと、そういった宣伝の仕方もあるのではないかと思ひました。他の催し物の最後にでもよいので、この資料館でもこういうふう「こ

どもの絵日記を取り上げてます」という様にちょっとアナウンスするだけで、あるいは資料を置いておくだけで、関心を持って来てくれる人がいるのではないのでしょうか。ここ（資料館）だけの話ではなくて、いろんな施設が一緒になってうまく繋がっていくのも大事なかなと感じました。

それからもう一つ非常に面白かったのが、文化財ウィークと連動させた催しでした。全部は行けませんでした。普段見られないものを見ることができて大変面白かったです。あるお寺の曼荼羅（注：日曜寺・愛染曼荼羅）などを見せてもらって、それらを回っているときに非常に詳しい歴史愛好家のような方々たくさん来ていて、その場で侃侃諤諤の議論するような場面も何度も見ました。なのでこういうタイアップしていく企画で、如何に外部の催しをきっかけにしてこちらの資料館に来ていただくかということも重要だと昨年は感じていました。色々なものを絡めていくと面白いと思っています。

もう一つは昨年の企画の中で、中山道の板橋宿についての企画で非常に来館者数が多くて、さきほども4683人と出ておりました。恐らくNHKの大河の影響だったかなという気がします。この宣伝のときにたしか「浮世絵も展示してます」のような宣伝文句もあったような記憶もあります。美術館ではないので実際にはパネルがほとんどでしたが、昨年一年間は色々な美術館で浮世絵展示が非常に多かったと思います。大河の影響がもしかしたらここにも出たのかなと、来館者数を見て思った次第です。郷土資料館が必ずしも全ての世の中の流れに迎合する必要はありませんが、みんなが今どこに関心があるかというのを少し意識して、PRの中に少しそういうのを取り入れるだけで人の目はこっちに向くのではないかと思った次第です。以上です。

○会長（森田委員）

ありがとうございました。地域博物館はいろんなところと連携して、色々な地域の動向とか、もう少し広い範囲の世の中のこととか、そういったものをダイレクトに受けとめて、色々展開していくべきだと思ってお伺いしておりました。今利用者の視点ということもご指摘いただきましたが、まだご発言いただいてない特に教育関係の先生で、何かございましたら。

○学校教育関係委員（中村委員）

中学校の社会科部長しています、中村と申します。よろしくお願いたします。様々な工夫を凝らして、学芸員の方も本当に苦労されて作っている企画ですが、なかなか中学校としては生徒を連れてきて（社会科見学を行う）、ということが全然ないというのが現実なのかなと。これだけ地域的だともう少し利用価値があるのかなと思いますが、時間を生み出してこういうふうなことをやってみようっていうようなことができないのが現状なので、今感じているのは少なくともこの板橋区の社会科の教員、区中研の臨地研修とかもありますので、改めて資料館に連れてきてこういう資料があるんだ、それを授業にどういうふうに生かすかっていうのを考えるきっかけにしよう、なんてことができるかなと思います。

私は志村四中なので、ここ（資料館）まで来るのに30から40分ぐらいしかかからないんですけども、そのぐらいだと特別支援学級などの校外学習に連れてくるときに、いつもどこに連れて行こうかなと苦労しているんですけど、これだけ身近に素晴らしいものがあるって、いろいろな工夫がされているような展示があるので、ぜひそういうところでも生かしていきたいなと思ったところです。

○会長（森田委員）

はい、ありがとうございます。木村先生いかがでしょうか。

学校教育関係委員（木村委員）

はい、弥生小学校の校長をしております木村と申します。いろんなことを思いながらお話を聞かせていただいている、最近の子供たちの様子や子供たちを見て感じるのが、今いる小学校6年生の子でももう東日本大震災は知らない、生まれてないということなんです。それはどういうことかということ、例えば東日本大震災の動画を見せて、それから東京大空襲の動画を見せると、(二つの事が)同じように子供たちは感じるというか。ではどうすればいいのかなとなると、やはり身近なところにぐっと視点を当てるとというのが小学生の場合は必要だろうと思います。

私は校長になって今年目ですけれども、例えば6年生の戦争の単元のところで、弥生小学校の地域では城北大空襲が4月13日にありましたけれども、そのときに弥生小学校の正面に公園がありまして、その公園にも爆弾が落ちたというような記述が周年の記念誌のほうに載ってましたものですから、それを教材化して東京大空襲とか沖縄戦とか広島・長崎とか、そういう一般的によく知られている事例の話はもちろんするんですけれども、それだけだと新聞見ると変わらないような感じもしますので、そこで実はこの地域にも、この教室から見えるそこにも爆弾が落ちたというような話をすると子供たちが「ええっ」と驚くんです。それらをいかに一本の道として、歴史事象とか様々なものにどう繋いでいくかというのが、我々小学校の教員の役目かなというふうに思っているんですけれども、なかなかその辺が難しいなというところなんです。

これは去年もお話しさせていただいて、今の話題からは少しずれるかもしれませんが、例えば弥生小学校からここへ来るとすると、成増まで電車に乗って、成増から徒歩で約20分ぐらいです。私以前は新河岸小学校にありましたけれども、新河岸小学校のときはここへ来るのに徒歩で45分かかりました。やはり地域の郷土資料館ですので、小学校3年生で区の歴史の学習をする関係で3年生を連れてくる人が多いんですけども、来るだけで疲れてしまう。

それで他にも弥生小学校の場合は、例えば東京大仏だったりとか、他にもこの近くにいろんな歴史に関わるようなものがあるので、そこも一緒に見たいなと教員は計画を立てるんですけど、そうすると子どもが余計に疲れてしまう。ここへ来る頃には子どもが純粋に学習に集中するということが中々難しく、特に弥生小学校のあたりからだとても非常に遠いので、子どもにとっても郷土資料館は身近な存在ではない。それをどうつなぐかっていうところがすごくやっぱり悩ましいところなんです。

去年お話しさせていただいたのが、教育科学館に理科の（授業で）プラネタリウムを見るのに区のほうでバスを借り上げて、無料で各小学校、全51校ですかね、全部の学校がプラネタリウムの実験観察、体験をしたりする事業があるんですけども、ぜひ郷土資料館のほうにもそういうバスで直に来れるような事ができるともう少し身近に感じるし、色々な学校がこれ(※資料)を見せていただいてもうちの学校も含めて結構来てるかなとは思いますが、それでもやはり少ないですよ。全部で51校ありますから。やはりこの近辺の学校は割と行きやすいと思うんですけども、板橋区の北の方とか、東の方の学校ではなかなか行きづらいところがあって、そこをどう埋めていくかっていうところがすごく難しいなと感じながら、知り合いの教員に、今日こういう会(※運営協議会)があるから、どういう話をしてき

たらしいのか何人かの教員に聞いたところ、一番はぜひバスを走らせて欲しい事だと言われましたので、一応それをお伝えしたいと思います。以上です。

○会長（森田委員）

博学連携といいましても、ただ単に地域博物館側から「さあ来てください」と呼びかけてもうまくいかない。学校側のご要望も聞く必要があると思います。そういった観点で、今、学校の現場の観点からお二人の委員にご発言いただきました。そのご指摘を受けて、博物館側はどうすべきなのか。できることとできないことがあるのかもしれませんが、今、ご指摘のあったバスの件などはどのようにお考えになりますか？これはやはり課長さんにお話を伺わなければいけないかなと思うんですけど。

○生涯学習課長

はい。バスの件で確かにここは交通の便が非常に悪いというのは、私も美術館に所属したことがあるので十分存じ上げていまして、美術館のときの事業として、各学校の要望を聞いて、バスを美術館のほうで仕立てて来てもらうというようなことをやっていた事業があったんですが。できない理由をお伝えして申し訳ないのですが、今バスの運転手さんのご事情が非常に悪くて、なかなかその辺の確保が難しくてというところで、予定していてもなかなか実現しなかったというような事情がありまして、その辺も含めてうちのほうでもバスの部分での送迎とかというところは、ちょっと県研究してみまして、できる方法で何らかの（方法が）あれば。

郷土資料館のありようというのは、やはりシビックプライドであったりとか、または郷土愛というところの醸成かなと思います。特に小さいとき、小学生時代とかに見ることによって、板橋区に対して愛着を持っていただくというところ、今後板橋区に貢献していただくというかね、そういったところにまた繋がっていければなということも含めてですね、区の税金で運営させていただいてるところもありますので、そういった部分も含めて研究させていただいて、またご相談させていただければなと思いますので、よろしく願いいたします。

○会長（森田委員）

ありがとうございます。

この他、別府委員のメモを拝見しますと、小学校の社会科担当の先生方に地域の歴史や行事を周知するにはどうしたらいいか、っていうことをやっぱり考えるべきであるという、まさにそういうご提言をいただいておりますので、バスの件はともかく、こういった形で連携していったらいいのかということで、今いろいろとお二人の先生におっしゃっていただきましたので、それを受けてですね、バス以外にも何かもう少しできることがないのか、ちょっとその辺のところをもう少し、また今すぐでなくてもよいので、今後、お考えいただきたいと思います。

そういたしましたら、時間が少し迫ってきておりますので、発言されていない方。

○学識経験者委員（入江委員）

はい。今日来たらこのことは言いたいなと思ひまして、まさに副会長(中野委員)さんに言われてしまいました。本当にこんな不便なところに両方(資料館・美術館)あるんですよ。だから部外者としてはここ(資料館)に来るんだったら隣も行きたいし、美術館に行くんだったらこっちにも行きたい。だからまさに連動した企画が必要ですよ。先生(中野委員)も述べられましたけど、例えば子供の絵でもいいで

すし、あるいは中山道だったら旅の浮世絵でも旅日記でもいいです。和宮の展示に関連したもので、(島崎)藤村の夜明け前という小説があります。あれは木曾の宿場でのドタバタがとても細かく書いてあって、すごく興味持って読める小説なんですね。要するに、資料館と美術館の企画が連動して、両方とも行けるようになったらいいなと思います。

○会長(森田委員)

ご指摘いただいた点は、すごく大事なことです。歴史系の博物館と美術館は、連携できそうでなかなかやりにくいんです。板橋区立郷土資料館と板橋区立美術館は、お隣同士ですが、ということで、所管するところが違うのでは？

○生涯学習課長

はい。所管が違ってしまっていて、こちらは教育委員会のほうなんですけど、美術館のほうが区長部局ですね

○会長(森田委員)

それぞれの自治体のご事情があると思いますが、利用者の立場からすると、美術館も博物館も文書館も図書館も、生涯学習施設としては同じです。ですので、どのように連携していくのか。この点はどこの自治体でも課題だと思います。今後考えていただきたいですね。

県とか国のようなものになってくるともうそれはなかなか難しいので、むしろ区レベルの、或いは市町村レベルのところだからこそそういったことがまだできると思います。同じ区内で折角隣接しているわけですから、今後の課題として考えていただきたいと思います。

○生涯学習課長

学芸員同士がこちらの郷土資料館と美術館のほうで定期的に交流しながらもいろいろ研究をしてるというか、お互いにそういった勉強会みたいなものを開いてるという状況があるんですが、今おっしゃっていただいたその辺の連携という部分の視点が、もしかすると欠けていたというか、そこがなかなか気がつかないのかなと思うので、今日ここに学芸員がいますので、その辺のご意見を当然お伺いしますので、次回からそういった研究会なんかの場ですね、積極的に展覧会の内容についても考慮しながら進めていくのが、非常にいいかなということは皆さん認識したと思います。

○会長(森田委員)

そうですね。勉強会をやっておられるという話を伺って、非常にいいなと思いました。行政としては縦割りのなところはまだ解消できてないけれども、現場の方々がそうやって一緒に勉強して、博物館なり美術館なりをどうあるべきか考えることは非常に大事なことだと思います。上司の皆さんはぜひ支援していただきたいと思っています。

なぜそういうことを私が申し上げるかといいますと、何か災害とか地震とかそういったものがあるときに、文化財のレスキューにおいて、一緒にやっていけるかという問題だと思うわけですね。日頃からそういったようなことをやっておられるのは、非常に素晴らしいことだと思います。

【議題】

【③ 令和9年度の事業計画】

郷土資料館長から資料に基づき報告
各展示企画案について各担当の学芸員から説明

【質疑】

○会長（森田委員）

ありがとうございます。令和9年度の事業計画をご説明いただいたわけですが、そういったのを受けてちょっと、あまり時間ございませんけどもご発言なさっていない方がおられましたら、ご発言をお願いします。

○住民代表委員（江口委員）

はい。もう1回話を戻して申し訳ないのですが、20年前になるんですが、私も金沢に3年半ばかり単身赴任しておりまして、それで「氷室開き」ってよく知ってるんですね。氷室開きはこうやって雪をためておいて江戸まで運んだんだって、金沢の人は恐らく誰でも知っていると思うんですね。マスコミでも7月の30日から8月1日のいずれかに、ローカルニュースで必ず放送しているはずですよ。それだけ向こうはお祭りですって、氷室饅頭というのは必ず何軒か有名なお菓子屋は出します。何かそういうのも連動して、板橋区ももう少し上手くやれたらと。せっかく氷を持ってきてるわけですから、板橋で氷室アイスを出すかどうかは別にしましても、（金沢から）来た氷がありますよということをもっとPRすれば、なんか面白い企画の一つにはなるんじゃないかなという気がするんですね。そういうふうには感じました。以上です。

○会長（森田委員）

ありがとうございます。氷室饅頭懐かしいですね。金沢市との連携というのも、多分今まで何度かやっておられますよね？

○生涯学習課長

はい、金沢市は交流都市とその関係で。

○会長（森田委員）

引き続きそういったところをお願いします。自分のところの博物館だけで自己完結するというのは難しいと思いますので、いろいろなところと連携していただけたらと思います。

ところで、せっかく令和9年度の企画展、特別展、企画の資料をお出しいただいておりますので、そのことで皆さん何か気が付かれたことはございますか。

○学識経験者委員（小倉委員）

はい。令和8年度のことなんですけど、臨時休館の間ですね。設備更新が中心だということですがけれども、ちょうどお客さんがいない時期なので、虫害対策ですね。パストマネジメントのことがちょっと気になったので、そこを集中的にその調査するとかなさった方がいいんじゃないかなというふうに思いました。

実は、去年の夏伺ったときに2階への上がり口の階段の下に虫がいたので、それ

が気になっていました。コオロギみたいな虫でしたけど、やっぱりそういうのも入ってこれる環境があるし、ここは自然豊かなのでそういうのに気が付くというか、そのとき（臨時休館）がチャンスじゃないかなというふうに思うんですよね。ですので、そのあたりを来年度できればなされた方がいいんじゃないかと思っております。

○会長（森田委員）

ありがとうございます。

○副会長（中野委員）

資料17ページに、小・中学校の団体見学における事業で、時期と人数が出ていて、ここを見ますとやっぱり12月と1月に集中していることがよくわかります。おそらくこれも学校の授業の都合だと思うんですが、そうするとその時期に、次はどういう企画があるのかなと思いつつ資料を拝見しておりました。

このことは確か昨年言ったような気がするんですけども、この小学生が来るときに小学生の関心のあるものをちょっと意識して入れておくと、郷土資料館に対しての関心が向くのではないかと思います。今年はそれが少し意識されたのかなという印象も受けております。

例えば上板橋小学校についての企画の中で児童の絵画などが出てくるということですから、同じ年ぐらいの子どもたちのものということで小学生が身近に感じて興味を持って見るのではないのでしょうか。

小学生が関心持って見そうな工夫をされてるようなことも各企画のなかに散見されますので、その辺をもっと意識していただけたらと思った次第です。以上です。

○学校教育関係委員（木村委員）

はい。宣伝の仕方をもっと大々的にというか、学校のほうにどこまで入り込んでいくとか、具体的にどうするかはまだですけども、宣伝の仕方もあるかなというふうに思いました。以上です。

○学識経験者委員（鈴木委員）

はい。関係する学校全51校ですか、小学校がなかなか来れないという話がありましたが、これはある意味非常に問題になっています。教育の機会均等になっていないということになるので、要するに行きたいといっても行けないとか、物理的な問題ですよね。やっぱり行政はそこをきちんと手当していかないと、近くの学校の生徒、子供たちはそういった公共施設を使えるが、遠いところの子どもたちは使えないというのでは、同じ税金で運営している中ではやはり問題になってくると思います。せめて足(交通手段)を確保するとか、そういうところは行政側がきちんと考えていく必要があるんじゃないかなと。理念的な問題として取り組まなければいけないことだと、それだけ言いたいと思いました。

○会長（森田委員）

非常に大事なことで、その辺のところは努力していただきたいというのが多分、運営委員の皆さんみんなのお話だと思います。

○住民代表委員（別府委員）

一言だけ。先生(木村委員)からもっと宣伝して欲しいというお話でしたけれども、広報とかホームページとか、色々やってはいるんですよね。私は成増小のCS（コミュニティースクール）をやっているんですけども、社会科の先生とお話すると地元のこととか、そういったイベントをやっているということを全く知らないんですよ。ですからそれは逆に先生方が(情報を収集したほうがいいのでは)。郷土資料館からすべての皆さんに周知するというのは中々大変なので、例えば協議会の社会科担当の先生方だけでも、メーリングリストなどを作っただけであれば、そこで一括で連絡するということができると思うんですよね。そうすると郷土資料館の行事ですとか、文化財でやっている行事とか、史談会でやっている行事とか、そういった情報を1ヶ所だけになら流してもらえないかなという気がしますので、そういうシステムを作っただけでももうちょっとPRが進むんじゃないかと思えます。

○学校教育関係委員（木村委員）

社会科部長のほうに全部流していただけると。あと教員と、その社会科部の中でのそういうメーリングリストみたいなものがありますので、どんどん流していただけてください。

○住民代表委員（別府委員）

そこ1か所だけ流して欲しいという要望を出していただければ、1か所だけなら多分やっていただけると思うんです。

○会長（森田委員）

そういった形での工夫の余地がまだあるということですね。いかがでございましょうか。他にどうしてもというのがございますか？若干時間オーバーして恐縮でございしますが、少し私のほうから。

全体を通してなんですけれども気が付いた点で、常設展示の活性化ということいろいろ（工夫）されているところはすばらしいと思います。その上で、先ほどの「学芸員の研究室」とか新たに名称を変えてということですね。形をこれからお考えになることだと思いますが、ミニ展示とあるところはですね、これはやはり、名称を本当に“何をここでやろうとしているのだろうか”っていうところは、しっかりと学芸員の皆様は考えていただきたいですね。単にコレクションを出すのか、それとも地区別なのか、その辺のところをちゃんと考えていただいて、スッキリくる名称にしていきたいと思います。

この「学芸員の研究室」も学芸員の研究室(の名称)でいいのか、それとも今の学芸員はこういうことやっているというところをですね、もっとビビットな形で表現したほうがいいのか、そういう名称の問題は大事なので、そこはしっかりと考えていただきたいと思います。

それから別府先生が他にも2点大事なことを言っておられます。これは学芸員の皆さんというよりも上司の方々に対するご意見です。残業は減少しているか、自己研鑽できる余裕があるか、それから出張時に現地の博物館等を見学できるのか。そういった面を別府先生の方から頂戴しています。私が申し上げるのもおこがましいですが、学芸員の仕事は、9時に来て5時に帰るということでは完結いたしません。どうしても忙しいときには、夜遅くまで残業しなくてはならない。そういうことも

ございます。また、良い展覧会に向けて多くの専門書や図録に目を通し、企画を練らなくてはならない時間があります。そういう場面を行政職の上司の方がご覧になると、遊んでいるように見えるかもしれませんが、決してそうではありません。どうしたら楽しい展覧会にできるのか、そのための考え事をしているわけです。

学芸員が出張時に現地の博物館に立ち寄ることも、自館の展示に活かすためのいろいろなヒントをもらってくる大事な仕事です。そこをちゃんと認めて差し上げてください、ただし、学芸員の皆さんは見てきたことをきちんと復命書に書いてですね、上司や同僚の皆さんと共有できるような形にさせていただきたいと思います。

別府先生の貴重なご提言を受けて、時間の関係上、私の方で整理して、かわりにしゃべらせていただきました。

時間が10分オーバーしていますが、これで終わってよろしいでしょうか。はい、これで進行を事務局へお戻しいたします。

【閉会】

○生涯学習課長

森田先生、議事進行ありがとうございました。実は昨日ですね、区議会の特別委員会のほうで、文化財というところを取り上げての審議がありまして、その中でも郷土資料館の展示の部分での何かPRの仕方であるとか、また一部講演会の来場者が少ないとかっていうところもいろいろご指摘いただいたところでございます。なので、その辺の部分とまた本日いただいたご意見を踏まえてですね、今後また協議して参りましてより多くの方にご覧なっただき、より多くの方に楽しんでいただけるような郷土資料館を目指して参りたいと思いますので、今後ともよろしくお願い致します。

本日はどうもありがとうございました。